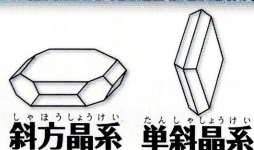


DATA FILE



斜方晶系 単斜晶系

名 前	PREHNITE (プレーナイト) / ぶどう石
化学組成	$\text{Ca}_2\text{Al}_2\text{Si}_3\text{O}_{10}(\text{OH})_2$
色	淡緑色、灰色、白色、黄色、無色
光 沢	ガラス光沢
蛍 光	なし
条 痕	無色
劈 開	完全
断 口	不規則
硬 度	6 ~ 6.5
比 重	2.9 ~ 3.0

ぶどう石

PREHNITE

ブドウ状のほか、球状や腎臓状の塊になることが多い。

ガラスのような光沢を持つ。

インドで産出したぶどう石の集合体。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと不規則な断口があらわれる。

玄武岩質～安山岩質火山岩中の脈や空洞内に生成するほか、低温低圧の変成岩中、熱水鉱脈、ペグマタイト中に見られる。

石英、曹長石、パンペリー石、緑簾石、方解石などと共生する。

別名は「ケープエメラルド」

微細な四角板状結晶が放射状に集合したブドウ状の塊のほか、球状や腎臓状の集合体で産出するぶどう石は、クリソプレースやベスピアナイトと外見が似ているため間違えられることが多く、発見当初は緑色の石英である「プレース」の一種とも考えられていたが、18世紀末に独立種と判明した。「ケープエメラルド」と呼ばれる良質の結晶は、猫の目のよ

▼インド産のぶどう石。細かい四角板状の結晶が確認できる。



フ
ぶ
ど
う
石



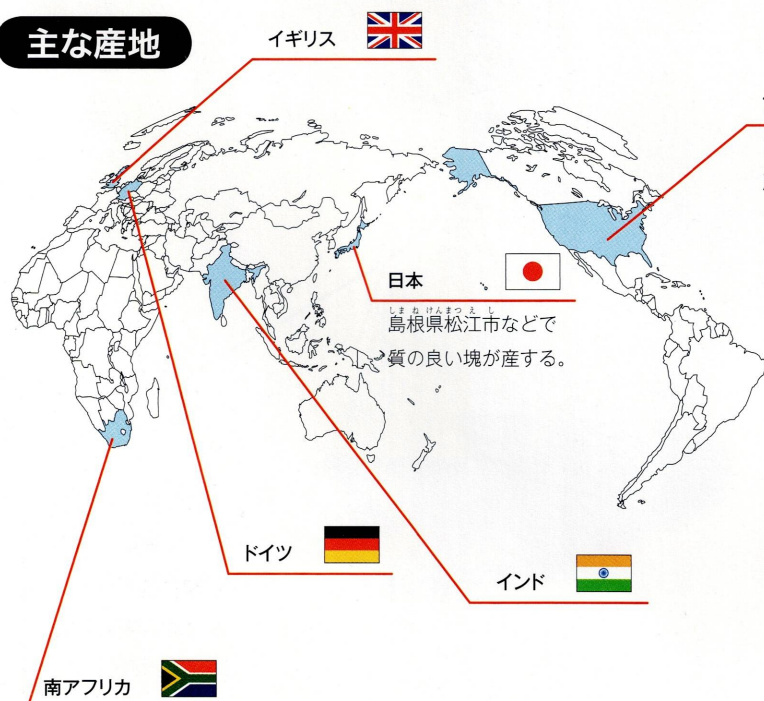
▲黄色い緑簾石の集合体にもなって生成したぶどう石。

うな光学模様を生かしてカボションカットが施され、アクセサリーに加工される。また、ひすい輝石や軟玉にも似ているため、それらの模造品に利用されることもある。

和名と英名の違い

ぶどう石の和名と英名の由来は、大きく異なる。和名の「ぶどう石」は、結晶がブドウの房のような集合体で産することと、マスカットに似た色合いを示すことにちなんでいる。一方、英名の「プレーナイト」は、1788年に南アフリカの希望峰で発見されたこの鉱物を最初にヨーロッパへ持ち帰ったオランダ人、H・フォン・プレーンを称えて名づけられたものだ。

主な産地



▼研磨された淡緑色のぶどう石。

